

+ 6 9 【へんめん】

転校生の辺見君は、見るたびに顔が変っています。

これは顔面模写というやつかとおもっていたが、まったく別人に見えるのだから困るのです。

後ろ姿で、おうい辺見君と声をかけても、振り向いた顔が別人なのだから、すまんのうと謝る。

すると、謝ることないよ僕だよ、と答えるのです。

まさかおばけではないとおもうが、一応懐爺に聞いてみました。

「中国の伝統芸に変面というものがあります。瞬時に顔がまったく変るのです。しかしこれはお面を使った芸ですからね。お面なしで変ってしまうとしたら、これはやはり【へんめん】ですかね」

「へんめん、じゃのうて、へんみくんじゃ」

「だからその辺見君が、おばけの【へんめん】だというんですよ」

「そうかのう。おばけにしては、とてもやさしいこじゃがのう」

「おばけが優しくないというのは、偏見です。おばけはもともと優しいのですが、人間が怖がるから怖くなるのです」

「そうかのう。おばけはこわいから、われらはこわがるんじゃないんかのう」

「それは先入観というものです」

「せんにゆうかんだあ、どんなかんのんさまじゃ」

「先入観は観音ではなくて、つまりその。ともかく【へんめん】は優しいおばけですよ」

「だども、ああもかおがかわっては、やっぱしおそろしいのう」

「人間だって変りますよ。叱るときと笑うときとでは、同じ人物なのにまったく別人ですよ」

「たしかにそうじゃのう。するてえと、へんみくんのかおは、ちよいとにんげんよりも、きょくたんにかわるというだけかのう」

「そういうことでしょうね。ですから辺見君は【へんめん】という特徴をもった仲間と考えればよろしいでしょう」

というわけで、ぼくは【へんめん】、いや辺見君と仲良しになりました。

辺見君は毎日顔が変わるので、ぼくは何十何百何千の仲良しができた気

分になりました。